

COOP

京都の生協

C O N T E N T S

見直そう「たべる たいせつ」



ネットワークNOW----- 2

●京都府大食保健学科健康科学教室教授
医師 東 あかねさん

●京都府生活協同組合連合会副会長理事
末川千穂子さん

●国際協同組合デー 第12回京都集会--- 8

●食の安全を求める取り組み結果

◆食品衛生法・運用充実強化を
求めるとりくみ ----- 10

●京都府総合防災訓練に参加 ---- 11

●組合員とともに

◆食べる喜び、生きる力をすべての人に -- 12

◆第3回京都三医療生協組合員交流集会 -- 13

●TOPICS ----- 14

◆京都府保健福祉部懇談会 ◆京都府商工部懇談会

◆吉田会長表彰 ◆京都府生協連役職員研修会

◆鳥取産直キャンペーン

◆京都生協新旧理事長バトンタッチ

◆京都市民平和行進

●2001 秋の生協強化キャンペーン-- 16

●探訪 総合交流販売施設くみはま SANKAIKAN

●2001●september●NO 43

発行●京都府生活協同組合連合会

〒604-0851 京都市中京区烏丸夷川東南角 せいきょう会館2F

TEL,075-251-1551 FAX,075-251-1555

ホームページURL: <http://ha2.seikyoku.ne.jp/home/Kyotofu.Seikyoren/>

メールアドレス: Kyotofu.Seikyoren@ma2.seikyoku.ne.jp

国際協同組合デー京都集会

主催 京都府協同組合連絡協議会



ネットワーク

NOW

見直そう
たべる たいせつ

京都府で465,620筆、全国で1373万筆よせられた「食品の安全を確保するための食品衛生法の改正と充実強化を求める署名」は6月末、衆参厚生労働委員会で「審議未了」となった。昨年来、雪印の問題をはじめ、輸入食品の増大にともなう海外の農水産物や遺伝子組換え食品などの食べ物への不安がいっぱいの中で、厚生労働委員会はこの国民の声に応えなかった。

日本の生協をはじめ、生産者、消費者はあきらめず、引き続き国会へのはたらきかけを予定している。同時に、この秋から「食べるたいせつ」をテーマに、食生活の大切さを考えていくとりくみを進めていくことを決めた。



6月3日、片山鳥取県知事は、国内の農業の振興と鳥取県産農産物の利用を生協組合員に訴えた（京都生協パリティで）

見直そう

「たべる たいせつ」



末川千穂子さん



東あかねさん

ネットワーク・ナウ

Network! 対談 now

21世紀に
はばたく
京都の生協

欧米で「スシ」や「トーフ」がもてはやされ、日本の伝統食が長寿食として注目を浴びる一方、国内ではファーストフードやコンビニ弁当が席卷し、若者を中心に生活リズムの乱れも指摘されている。「食」の乱れは「暮らし」の崩壊にも通じているようだ。今回は、予防医学の観点から日本人の食を見つめ続けてこられた東さんとともに、「食べることの大切さ」について考えてみた。

生協の共同購入は共働きの強い味方！

末川 先生は「栄養士をめざす大学生を育てる、聴診器を持たないお医者さん」として共働きをされているそうですが、ご実家もずっと生協の共同購入をなさっていたとか？

東 ええ、生協とお付き合いは私が中学生のころからですね。私自身も、生協のおかげで仕事を続けることができたようなものなんですよ。

末川 ご結婚なさってからも生協を？

東 ずっと共同購入を続けています。でも、共働きですと、荷受けに出ることができないんです。そういう家はう

ち以外にも五軒ぐらいあって、

班にはその分の荷受けを毎週、引き受けてくださる方がいら

っしゃるんです。その方ご自身もお仕事をしながら、配

達のある曜日をご自分の休日にして、班の荷受けを一五年

以上、一手に引き受けてくださったのです。そのおかげで、

私たち一家は共働きを続け、子育てもすることができたよ

うなものなんですよ。

末川 そういう方たちに支えられて生協は成り立っているし、忙しい方たちにとってこそ、共同購入や個配が必要とされていることがよくわかります。

「病気を早く見つける」から「病気にならない生活」へ

末川 先生はどんなきつかけで食生活に関心をお持ちになったのですか。

東 だいぶ昔なんですよ(笑)。子どものころ、幼稚園児の妹が登園拒否を起こして、転園したのがきっかけなんです。新しい園は「食べることは生きるためにも大切なこと。

安全なものを、しっかりとよく噛んで食べましょう」という園長先生のお考えにもとづいて、玄米給食をなさっていました。当時はちょうど高度成長時代。社会は食の安全や食べることの大切さに無頓着でしたし、私たち子どもは真っ赤なかまぼこを食べ、着色料

がたっぷり入った粉末ジュースを飲んで、舌に着いた色をお互いに見せ合って喜んでいくような状態でした。でも、園長先生は「色の着いたものはだめですよ」と教えてくださったんです。

末川 当時としてはかなり進んだ教育ですね。

東 ええ、先駆的だとも思います。それで、さっそくわが家でも玄米食にしました。すると、まず父の便秘や痔がすっ

かり改善したんです(笑)。西洋かぶれの父は、熱い白ご飯にバターを溶かして食べたなら

おいしいというような人で、しかも絵描きだから、あまり動かない。そんな父の便秘や

痔が治るのを見て、食事の内容がこれほど体調と関係する

のかと初めて気づきました。それがきっかけですね。

末川 それがいまのお仕事にもつながるのでしょうか。

東 少なくともベースにはなっていると思います。大学に進むとき、とにかく一生続けられる仕事をしたくて、それ

には医者か教師だなと思いましたが、でも、人を教える仕事は私にはとても難しそうで、

それよりは病気を治すほうが簡単だろうと思って医者に

(笑)。府立医大を卒業後、内

科で修医として三年間を過ごし、いろいろな患者さんを診せていただきました。このときの経験が予防医学に本格的に取り組みきっかけですね。

末川 どんな患者さんが多かったのですか。

東 ひとことというところ「手遅れ」の患者さんです。「七、八年前から糖尿病だといわれていたが、痛くもかゆくもないから放っておいたら、目が見えなくなった」とか、「お乳のしこりに早くから気がついていたけれど、まだ子どもが小さくてなかなか受診できなかった」という乳がん患者さんとか。それで、「病院のなかで患者さんをまつているだけではだめだ。手遅れ状態で病院に来る人を減らしたい、病氣

の予防に役立つような仕事がない」と考えるようになって、府立医大の公衆衛生学教室で予防医学の研究や実践を始めたんです。

末川 予防医学というと、早期発見・早期治療のことですか。

東 当時はまだそういう時代で、たとえば「胃がん検診をして早く見つけよう」という

ていましたね。でも、私の思いは、病気を早く見つけるよりも前の段階、つまり「病氣にならない方法」を見つけた

いというところにありました。そのために何が大切かと考えると、やっぱり出てくるのは

食生活が再評価されているよう

うですね。

東 ええ、お米のご飯を主食に、魚中心の主菜、野菜や海藻を使った副菜というスタイルですね。それに大豆をたくさん食べることも特徴です。大豆が植物性たんばく質とカ

日本の伝統食 米、魚、野菜、海藻、大豆

末川 最近、日本の伝統的な食生活が再評価されているようですね。

東 ええ、お米のご飯を主食に、魚中心の主菜、野菜や海藻を使った副菜というスタイルですね。それに大豆をたくさん食べることも特徴です。大豆が植物性たんばく質とカ

の予防に役立つような仕事がない」と考えるようになって、府立医大の公衆衛生学教室で予防医学の研究や実践を始めたんです。

末川 予防医学というと、早期発見・早期治療のことですか。

東 当時はまだそういう時代で、たとえば「胃がん検診をして早く見つけよう」というていましたね。でも、私の思いは、病気を早く見つけるよりも前の段階、つまり「病氣にならない方法」を見つけたいというところにありました。そのために何が大切かと考えると、やっぱり出てくるのは食生活が再評価されているように、一五年前に私たちが京都府南部の和束町でおこなった調査がきっかけで、「日本人は乳がんや前立腺がんの発症率が低く、女性の更年期障害が西洋人に比べて少ない。大豆の摂り方と関係があるのではない

か」という仮説をフィンランドの学者が出しました。その後、大豆に含まれている植物性エストロゲンが体内で女性ホルモンのような作用をし、

性ホルモンと関係のあるがんの発症や更年期障害の症状を抑制していることが解明され、外国からも注目されているわけです。

末川 そういえば、以前は保存性のある食品―ひじきや昆布、高野豆腐などの乾物や魚や大豆の水煮といった素材缶をよく使いましたね。私は缶詰や乾物がそばにあると安心な、いわゆる「戦中世代」ですが(笑)、結果として体にいいものを食べていたんですね。

「便利さ」の裏側で

末川 でも、いまは食品を買い置きしなくても済むようになりました。そういう便利さを手に入れた代わりに、私たちは大きな曲がり角を曲がってしまったような気がしてなりません。みんな忙しくしているし、一日三度のご飯を食べて、だいたい決まった時間に寝るといった「暮らしの定型」のようなものが、なくなっています。

東 朝・昼・夜の三食を食べるというパターンは、たしかに若者を中心に崩れ始めています。以前は「食事を抜く」といえば、主に朝ご飯を抜くことでしたが、最近の学生のなかには、晩ご飯を抜いたり、晩ご飯が真夜中の二時ごろだったり、朝ご飯がお昼前の一時ごろだったりする人が増えています。

基盤の変化が大きく関係しているのではないかと思います。流通機構が整備されたこと、家事を軽減する家電製品が行きわたって女性の社会参加が進むなど、悪い変化ばかりではなかったはずなのですが。東 そうですね。食生活の面から見ても、末川さんがおっしゃったように、流通システムの改善や冷凍冷蔵庫の普及などによって、以前は約二〇グラムだった塩分摂取量も、いまは約一・二グラムに減りました。そのおかげで脳卒中や胃ガンの死亡率が減ったと言われています。

末川 ずいぶん減りましたね。東 ええ。しかし、お米をあまり食べなくなつて、反対に動物性の脂肪・たんぱく質をたくさん食べるようになりました。この二つが日本人の食生活の最も大きな変化です。で、いま日本人のなかでいちばんいい食事をなさっているのはお年寄りです。お年寄りは、お米のご飯をしっかりと食べて、そのうえ昔はなかなか摂取できなかった動物性のたんぱく質を、いまはちゃんと召し上がることでできるようになりました。ですから、現在の日本人の食生活を平均すると、以前に比べて炭水化物、脂肪、たんぱく質の三大栄養素の摂り方のバランスがとてよくなつて、

それが日本を世界一の長寿国に押し上げているんです。でも、世界一の長寿国があるとは何年続くかは、やっぱり心配です。食品に関する流通システムの急激な変化は、反面、コンビニ弁当やほか弁といった「中食」ブームをもたらしました。これが家庭に入り込み、とくに若者の栄養バランスの偏りや生活パターンの崩れにつながっているようですね。

朝ご飯にみる「子どもたちの食生活」

末川 他の国からも注目されている日本の食生活ですが、ことし創立五〇周年を迎えた日本生協連が、いま一度私たちの食生活を見直そうと、全国の組合員から「レシピ&エピソード」を募集したところ、八歳から九三歳までという幅広い年齢層から七〇〇件を

超える応募がありました。「食べることはコミュニケーションだ」「料理は世代を超えて引き継ぐもの」と考えている傾向がみえてくるそうです。東 いま広がっているのは、まさにその逆の現象なんですね。独りで食べる人が増えて、食事よコミュニケーションの

場ではなくなりつつあります。伝統的な料理や食品が失われ、魚よりも肉をたくさん食べるようになりました。その点、生協の組合員さんは一般の人たちと比べて食に対する意識が高い優等生だと思えますが、考えなければならぬのは、どうしてそういう意識が形成されたのかという点です。末川さんはどうお考えですか。末川 年齢によっても違うで



ネットワーク・ナウ
Network!
対談 Now

自分らしく生き、輝き、支えあうために



京都府立大学人間環境学部学舎前で

しょうね。七〇年代の食品公害が顕在化した時代を知っている世代は、初めから問題意識を持って参加しているし、その後は子育てを契機として「子どもに着色していないソーセージを食べさせたかったから」「牛乳がすごくおいしかったから」生協に加入したという人たちがつづきます。きっかけはさまざまですが、いずれにしても生協を利用するなかで商品を見る目が育ったということはあると思いますね。

見ていただきさえすれば表示はかなり丁寧ですし、生協の商品のもっている特長もできるかぎりお知らせしてきましたからそういう役割はある程度果たしてきたと思っています。ただ、いま三五歳以下の世代にどうつながっているか、男性の参加をどれだけ得てきたか、子どもたちの意識や行動がどうなっているのだろうかなど、気になる点はいくつもあります。

朝食は食生活全般の傾向を 反映、健康状態にも関係

東 子どもたちの問題は、私もとても気になっています。平成八年に京都府船井郡瑞穂町の食生活改善の取り組みをお手伝いしたとき、まず朝食の状態を調べようと、小学生、中学生、お父さん、婦人会の女性、老人会の男性など、すべての年代・階層にわたる朝ご飯調査をおこないました。すると、朝食の欠食率がいちばん高かったのは中学生で約二〇%でした。働き盛りのお父さんがその後続きます。やっぱり、最も優秀だったのは老人会の男性で、ほとんど

の方が主食・主菜・副菜のそろった食事をなさっていました(笑)。

末川 とくに朝ご飯を調べられたのは、どうですか。

東 人間ドッグを受診された方を対象に高血圧・高脂血・痛風など調査結果と食生活との関連を比較してみると、朝ご飯をバランスよく食べている人は昼ご飯や晩ご飯も含めた一日全体の食事のバランスも取れていて、そういう人は検査結果も異常が少ないという傾向がありました。つまり、朝食は食生活全般の傾向を最

も端的に反映し、健康状態にも深く関係しているのです。

末川 すると中学生たちは病氣も多いのでしょうか。

東 彼らはまだ若いので病氣というかたちではあらわれません。そこで、頭痛・腹痛・



21世紀に
はばたく
京都の生協

眠くてだるいといった疲労自覚症状を調べてみると、朝ご飯を食べているかどうか、野菜を摂っているかどうか、ゲームも含めたテレビ視聴時間などの関連が認められました。テレビを長く見ているお子さんは朝ご飯も食べにくい傾向があつて、これは幼稚園児や保育園児でも同様です。

行動を変えるのは意識と知識 子どもたちにも「食」のものをさしを

末川 子どもたちの話を伺っていると、これから先のことが心配になります。お金さえあれば欲しいものを何でも買うことができる時代だからこそ、世代を超えて共有できる「食」を考える時のものをさしを持つことが大事なのではないか。そのために生協だからできることがあるのではないかと、考えます。

東 わが家では、生協の注文書を高校三年生と中学一年生の子どもにも書かせているんですよ。「おやつは、固いもの、甘いもの、チーズやヨーグルトなどたんぱく質を含むもの、この三種からバランスよく選びなさい」と言つて。人の行動の背

末川 そうすると食生活のあり方だけではなく、睡眠時間やテレビの見方など、暮らし方全体のなかで考えなければなりませんね。

東 そうですね。テレビについてさらにいえば、おやつとの関連があります。幼稚園児や小学生にいちばんよく食べられてはおやつはポテトチップスで

すが、テレビコマercialの量が多いのもポテトチップスなんです。ですから、子どもたちのおやつはテレビの影響を深く受けていると考えられますし、さらに食生活全体がマスメディアの影響を非常に受けているといえますね。

景には必ず意識や知識があります。ですから、食に関する行動を変えるためには、意識や知識を変えなければなりません。そのため、最近では「給食を通じて食教育」が盛んにいわれ、学校の栄養士が食教育をおこなえるように、栄養教諭を置いて、子どもたちの意識や知識にアプローチしようという動きがありますし、私たちも主にそういうところに働きかけようと思つています。

もうひとつ、人びとの意識や知識の形成に大きな役割を果たしているものに、「食の環境」があります。つまり、生協やマスメディア、食品流通業界などです。こういった幅広い食環

境が、人びとの意識や知識を変えていき、そのことが表示方法を変えさせ、安全な食品の提供へとつながっていくのだと思います。そうして、少しずつかもしれないけれど人びとの食行動が変わり、徐々に定着していくのではないのでしょうか。その点では生協の、情報発信や、安全な食品を消費者に提供していく活動は、大きな意味で個人の食生活を支え、変えていく働きをしていると思います。

末川 ありがとうございます。生協は、国産・輸入にかかわらず、誰が、どこで、どんなふうにつくっているかわかることを大切にし、とりわけ府内産・地場産をできるかぎり大事にしたい

と考えています。高度成長期以来、消費者と生産者は切り離されてしまいました。「食べ物」はスーパーやコンビニの棚にあるもの」としか見えません。そんななかで、たとえば産直の牛乳は、その向こうに牛を飼ひ、乳を搾っている人がいるということをお教えてくれます。私たちは、つくる者と消費する者の顔が見える関係を大事にしたいし、それによって、食べ物に命を育んでいることを伝えたいと思つています。

一方で、遺伝子組み換え作物など新たな問題が起り、食べ物素材そのものがよくわからないという事態も生まれています。人はわかつてこそ初めて信頼できるわけで、「わからない」は不安の素です。ですから、生協は国の法令や規格を遵守しな



食べるたのしみと大切を提案
京都生協『コーポ3月号』より

ネットワーク・ナウ
Network!
対談 **Now**

自分らしく生き、輝き、支えあうために。

がら、消費者が選択できるように組み換え作物を原料としない商品の開発や取り扱い、そして表示を正確にすることに努めています。同時に、「人間や自然界に対する影響を長期的に検証してほしい」という働きかけをしています。また、食品衛生法を業者を取り締まる法から消費者の権利を守る法へと変える署名運動にも取り組みました。厚生労働省は「それは運用の問題。法改正の必要はない」という立場なので、今後の課題ですが。東 末川さんがおっしゃった

ように、食べることの大切さは生産の現場を見ることによって初めてわかります。生産者と消費者を結ぼうとする生協の取り組みはとても素晴らしいことで、また、米食を主食とする日本の食生活を守っていくことは農業を守ることにもつなが

り、それは国土を守ることにもつながります。農業基本法が農業者を主体にした法から国土の保全や消費者の視点も含めた法に変わったいま、生協の活動をもっと広げていただきたいと思っています。

食べることは楽しい！

東 できるだけ安全な食品を食べる努力をする一方で、あまり細かいことにこだわらないというのも大切ですね。輸入食品、加工食品の添加物、残留農薬、不安なものを排除していくと、それこそ食べるものがなくなってしまう（笑）。先ほどお話しした日本

人の食生活の基本、つまりごはんを中心とした主食、魚肉類の野菜、豆、海藻類たっぷりの野菜の副菜を揃えていけば、それほど心配することはないと思います。そして、独りで食べるのではなく、だれかと一緒に楽しく食べられたらいいなあと思

いますね。「健康日本21」（※脚注）という新しい国民健康づくりの運動では、栄養摂取の目標とともに、「一日一回は二人以上で三〇分以上かけて食べましょう」といった食生活の目標も掲げています。食事は、単に栄養を摂るだけではなく、それ自身楽しいものであったはずですからね。末川 細かなことに一喜一憂せずバランスを取ることが大切ですね。きょうは生協の活動にエールも送っていただきました。いま食の安全や、健康、子どもたちが育っていく状況を考えても「食べることをくらしの基本にすえていくことが大切になっていきます。食べものが、食べることが、身体と心を育て人とひととの落ちついた関係をつくり出す。それを日々のくらしの中で具

体的に実現していくために、ささやかな活動にも大きな意味を見出して、息ながく努力していきたいと思っています。どうもありがとうございます。

※脚注 「健康日本21」

「すべての国民が健やかで心豊かに生活できる社会」の実現をめざし、厚生省（現・厚生労働省）が提唱した健康づくり運動。健康寿命（痴呆や寝たきりにならない状態で生活できる期間）の延伸等の実現を目標に、「二次予防」に重点を置いた総合的な取り組みで、「栄養・食生活」「身体活動・運動」「糖尿病」「循環器病」「がん」「歯の健康」など九つの対象分野を設定し、具体的な数値目標を提示している。期間は二〇〇〇年から二〇一〇年度まで。

学歴：昭和56年5月／京都府立医科大学卒業
職歴：昭和59年／京都府医科大学助手（公衆衛生学）（平成5年まで）、平成8年／京都府園部保健所長（併任）（平成11年まで）、平成11年／京都府立大学教授：（人間環境学部）（保健医療福祉論、ライフステージ保健論、保健疫学、保育学、疫学及び集団調査法、専攻科目演習、専攻科目実験 現在に至る）、京都府立大学大学院教授、平成13年／京都府立大学大学院教授：（人間環境科学研究科食環境科学専攻担当 健康科学特論、栄養疫学、健康科学演習、健康化学実験 現在に至る）、医学博士

学校及び社会における活動等
昭和56年4月／日本公衆衛生学会会員、日本衛生学会会員、日本・栄養・食糧学会会員
平成2年10月／京都市健康都市構想懇談会研究会委員（平成3年3月まで）
平成4年9月／日本循環器病管理研究協議会会員
平成9年4月／京都府成人病検診管理指導協議会委員（平成11年3月まで）など歴任

東 あかね
ひがし



末川 千穂子

すえかわ・ちおこ
1986年5月 京都生協理事に就任
1991年5月 京都生協副理事長に就任
1996年5月 京都生協理事長に就任
（現在） 京都府生協連副会長



『虹のメッセージ』を出版

末川 千穂子さん（京都府生協連副会長理事、前京都生協理事長）

京都生協初の女性理事長として活躍された5年間をふりかえり、ひごろの生協活動や次世代へ引き継ぐ思いを一冊の本にまとめ出版されました。〈（定価消費税込み）1,596円〉

●お問い合わせは、京都府生協連事務局まで



21世紀に
はばたく
京都の生協

国際協同組合デー

第12回京都集会開かれる

「くらし・食・人いきいき」をテーマに開かれる

七月四日、京都府協同組合連絡協議会（構成…京都府生協連、JA京都中央会、京都府漁連、京都府森林組合連）主催で綾部市中央公民館で開催され、漁連から一七名、JA京都から四五名、森連から一五名、生協から五七名、近畿農政局三名、合計一四〇名の組合員や役職員が参加しました。午前中は、女性交流会と京都木材加工センターの施設見学会がもたれ、午後全体会が開かれた。

全体会の開催にあたり、京都府漁業協同組合連合会代表理事会長白須明さんから「京都におけるそれぞれの協同組合をとりまく状況は厳しく重大な局面を迎えている。本集会をセレモニーにせず、協同組合の意義をほりさげ、再確認し、さらなる協同組合の前進につなげる場にしよう」とあいさつ。

農林水産省近畿農政局長伊藤元さんからは「食料・農業・農村基本法のもとでの近畿のうごき」と題しての話題提供をいただきました。「新基本法は食料、農業、農村を総合的にとらえた国民にとって重要な法律だ。生者の視点から、食料の安全性の確保、食生活のあり方、日本の食料（自給率など）のあり方などを考えていこう」と提案。

各協同組合からいきいきと活動報告

「京都の木ネットワークの活動などについて」と題して京都府林業研究グループ連絡協議会副会長高畑正康さんからは「京都産木材のよさを伝えよう、家づくりを助け京都の林業を振興しよう」と家を建てたい人（一般会員）、家づくりを手がける人（林業家、工務店、設計事務所などの事業会員）などがあつまり森と街をつなぐ「木ネットワーク」が六月に生まれ、頑張っているようすを報告。

「都市と漁村交流から次代の漁村づくりを考える」と題して、本庄浦漁業協同組合青年部長の井上弘司さんからは「平成一二年から「村に活気をつけよう」と都会の人々に地域の情報を知らせ、浦島太郎の里で漁業体験をしていただ

き、交流（ブルーツーリズム）の取り組みが始まった。定置網体験、もんどりの体験、蛸壺、わかめ刈り漁、イカつり漁などの体験を通して、参加者の海や漁業を見る目が大きく変わってきた」ことを報告。

「JA京都にのくにおける生産者と消費者の交流の取り組みについて」と題して、JA京都にのくに営農部企画販売課主任の深井忠進さんが「平成九年から、綾部市小畑地域で春と秋の二回、五〇名の親子が参加し、農業体験交流がひろがっている。春にはサツマイモ苗植え、田植え、秋にはサツマイモ掘り、稲刈りをおこなっている。交流を通して「環境にやさしい農業」が大きなテーマになっていけることを報告。

「生協の環境の取組みと農林水産業への期待」と題して京都生協理事の中土三津子さんからは「事業活動と組合員活動の面で環境活動が総合的に広がっていることを紹介し、組合員活動の取り組みとして「お買い物袋持参運動」、「牛乳パックの回収」、「食品トレーの回収」、「ペットボトルの再生」、「共同購入カタログの再利用」、「卵パックの回収」などについて現物を見せながら報告。「生協は、くるくるまわるリサイクル活動のベルトコンベア」の役割をはたしてい



「くらし・食・人いきいき」をテーマに
お話しする南専務理事



京都生協の環境活動を報告する
中土理事



話題提供をする
伊藤近畿農政局長



開会のあいさつをする
京都府漁連白須代表理事会長



ヘルパー活動を報告する土坂さん



活発な活動報告と意見交換がおこなわれた

きたいと報告。

「くらしいきいき」をテーマに

（勸）京都府総合見本市会館専務理事
南恵美子さんを講師に迎えお話しを
いただきました。

「農業を考えると、女性の力が
大きかったと思う。女性は一人では
なく、グループを作り、さらに農協
活動にかかわり農業を育て、地域を
つくる上で大きな役割をはたしてき
た。」「二一世紀を迎え、京都府は新
京都府総合計画を発表した。計画の
基本理念は「むすびあい、ともにひ
らく新世紀・京都」となっている。
二〇世紀は「物」を中心とした次代
だったが、今後は「心」が大切だ。
農業においてはつくる人と食べる人
の心のつながりが大切。食べ物はや
はり安全性の問題が大きい。それを
実現する上で「地産地消」の考え方
は新鮮で、安全な食べ物を実現する
上で大切な考え方だ。この考え方を
若者達にもうけるような言葉で発信
したらどうだろうか。二一世紀、農
林業や漁業の役割は、地域をつくり、
考え、地域を守り、発展させ、生産
にかかわる人々が力を合わせる場と
しても大切だ。生協は生産と消費の
ベルトの役割を期待したい。」と話さ
れた。

最後に閉会のあいさつを京都府農
業協同組合中央会専務理事の小瀧茂
さんがおこない閉会しました。

女性交流会「くらし、食、人いきいき—協同組合の元気をつくる女性たち」をテーマに

京都J A女性組織協議会副会長三嘴正子さんから開会のあいさつ、各協同組合の活動報告がおこなわれました。

「女性の輪と京野菜」と題して四方（JA京都にのくに）さんから女性ばかりで構成する「やためグループ」での野菜づくりで、地域で採れた野菜を地域のスーパーの朝市にだし、消費者に喜ばれている。鹿ヶ谷かぼちゃの生産が、テレビにも取り上げられた。グループでは、休耕田を利用してそれぞれが作りたい農作物に挑戦し、花作りなどにも取り組んでいる。土地をできるだけ荒らさないように頑張っていると報告。

「第20回ゆたかな海づくり大会の報告」と題して和田（京都府漁婦連）さんからは「昨年10月1日、網野町でゆたかな海づくり大会（国と京都府との行事）が開催され、招待者の接待コーナーを担当した。丹後地方で水揚げされる魚種を使って、3,000食を12名でまかかった。地元で水揚げされる魚種を使うことによって全国に京都の味覚を発信することができた」と報告。

「ヘルパーの活動」と題して土坂（やましろ健康医療生協）さんが報告。

4年前、18人で立ち上げた。家事援助、身体介助を中心に高齢者介護だけではなく、必要としている人への援助を行ってきた。活動をしていくうえで、やましろ健康医療生協と合流をし、ヘルパーステーション「さぽーと・ゆう・ゆう・ゆう」として活動している、ようすを報告。

「森林組合・みなもと会での活動」と題して久保（雲ヶ畑森林組合）からは「都市と山村との交流の場として集会施設を備えた「雲ヶ畑林業総合センター」がオープンした。京都府改良普及推進委員の指導を受けながら、ハーブの栽培を始め、ハーブティー、ハーブクッキーを作り、センターで提供している」と報告。

「いきいき活動する組合員」と題して田中（京都生協）さんが「生協でのコープ委員として、普及宣伝の料理を提案して試食してもらったり、各種のサポーター制度で、その商品の産地を巡って生産者と交流したり、生産工程を学習し、生協のお店で普及宣伝活動をしている」とようすを報告。

「花とハーブの里静原のために」と題して伊佐（JA京都中央会）さんからは「静原の女性部の活動を通じて、静原を多くの人に知ってもらうための話し合い、おいしい新米のおにぎりと、サツマイモづるの煮物、サツマイモのトン汁を「静原の里定食」としてメニューも決まり、ひまわりの種クッキー、ひまわりの種ケーキづくりも取り組んだ」とようすを報告。

第12回国際協同組合デー京都集会
女性交流会





5月19日には、厚生労働委員の奥山議員を囲んで勉強会をもった。

「食の安全」を求める署名運動の取り組み結果

食品衛生法・運用充実強化を 求める国会請願のとりくみ

◆国会請願署名、厚生労働委員会で「審議未了」

二〇〇〇年度、京都府生協連、J A京都中央会、J A女性協をはじめとした京都府の協同組合や多くの団体と一緒に共同し、京都府全体で四六五、六二〇筆の署名が寄せられた。京都府、京都市をはじめとする「食の安全を確保する」国会への自治体意見書採択は二六にもなりました。京都府民全体の運動としてとりくんできた署名が今回、国会の委員会で請願採択されなかったことは、大変残念なことです。

国会へ署名を提出する際の紹介議員も、各会派から賛同を得て、衆参あわせて七三%の国会議員が紹介議員となり提出されたにもかかわらず、請願採択されなかったことは、「食品の安全」を求める国民の声に国会が応えられなかったといえます。

「食品の安全」を求める世論の中で、今後、願いを実現するために、次期以降の国会にむけて、請願の再提出（団体請願）の準備をすすめていきます。

共同協力団体、会員生協といっしょに、賛同を得た国会議員の協力を得ながら団体請願を再提出をするとりくみをすすめていきます。

今後の取り組み

①団体名での請願書を、秋以降の国会へ提出する。

②食品衛生法改正案についての学習・意見反映をすすめる。

③食の安全と健康づくりの運動をすすめる。

地域生協は食の安全への学習・商品運動・料理学習・交流などを広げている。

職域、大学生協では、栄養や健康な食生活を視野に入れたメニューの提案をおこなってきた。また、医療生協分野でも、健康づくりの視点から食生活や栄養に関する学習会など運動がすすめられてきました。これらの運動を、より強めます。

④運動のひろがりを強めるネットワークづくりをすすめます。

会員生協のコーディネート機能として、京都府生協連が力を発揮します。

⑤京都府の食の安全行政の充実強化を求めるとりくみをすすめる。

⑥京都の食の安全と京都の食文化継承や「たべるといせつ」の運動をすすめる。

全国一三七八万筆の署名、全会派五四一名の紹介議員

「食品の安全を確保するための食品衛生法の改正と充実強化を求める請願」六月、通常国会会期末の衆参厚生労働委員会で「審議未了」となる。

二〇〇一年七月一〇日

「食品衛生法の改正と充実強化を求める請願」の結果についてのご報告とお願い

京都府生活協同組合連合会 会長理事 吉田智道

昨年来、みなさまのご協力のもとにすすめてまいりました「食品の安全を確保するための、食品衛生法の改正と充実強化を求める請願」につきましては、京都からの四六五、六二〇筆をふくめて、全国からの署名一三七三万筆を添え、衆参両院あわせて五四一名の紹介議員のみなさまを通じて国会に提出されておりました。

また、この請願の国会提出を前後して、一五〇を上回る全国の地方自治体議会から「食の安全」をもとめる意見書提出があいつぎ、京都からは京都府、京都市をはじめ一六自治体議会からの意見書が提出されていたところです。

今回の請願は、大規模食中毒事故の多発に加え、〇一五七、遺伝子組換え食品など、食品の安全をめぐる新たな諸問題に対して、食品の安全を確保するための社会的な仕組みの根幹となる法制度づくりをめざしたものであり、全国からの署名に国民的な願いを結集したものでした。

しかしながら、通常国会の会期が終わるにあたり、今回の請願については、誠に残念ながら、全会一致「採択」ということにはならず、「審査未了」という結果になりました。

今回の運動をよびかけた日本生活協同組合連合会では、今回の「請願」の「審査未了」という結果を遺憾としながらも、この「請願」によせられた全国の生協組合員、消費者の願いを実現させるために、次期国会にむけて引き続きとりくみを強めていくとしております。

同うところでは、請願審査のなかでは、署名の数の大きさからいっても、紹介議員の数の大きさからいっても、国会は何らかの対応をすべきだとの意見も多数出されているとのことであり、私どもも、日本生活協同組合連合会と歩調をあわせて「請願の再提出」を行うことも準備したいと考えているところです。今回の請願にあたりお寄せいただきましたご協力に心より感謝いたしますとともに、ひきつづき私どもの取り組みにつきましてご理解・ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

京都府総合防災訓練

「物資協定」にもとづき参加

8月26日(日)早朝、京都府北部鄉村断層を震源地に丹後六町を中心に大型地震災害の発生を想定して、京都府防災訓練が丹後の大宮町（丹後織物工業組合グランド）を主会場とし、丹後6町でおこなわれ、23,000人の住民や84の防災関係機関が参加した。

京都府生協連は、京都府との災害時「物資協定」にもとづき、必要物資調達、被災地での活動訓練、ボランティア活動訓練に丹後地域の組合員、職員など43名が参加。



訓練では7時30分、京都府の物資調達要請をうけ、京都府生協連災害対策本部を京都生協丹後支部に設置し、8時15分、丹後支部で「生協の緊急物資輸送車両」に指定物資を積載、配送手配をおこない、訓練会場（丹後織物工業組合グランド）に入った。

ボランティアは、生協連「災害本部現地事務所」（テント）に集合した。10時25分から、災害物資の牛乳1,500本、ジュース300本を被災者の避難している場所に運び、激励しながら渡しました。

生協のボランティアは「災害救援ボランティア」にふさわしい活動をおこない、地域社会における生協の役割を発揮しました。

京都府災害対策本部長代理に任務の終了を報告しました。11時30分より全体まとめ会が開かれ訓練は終了しました。



災害時の生協の役割や活動についてふかめようと丹後地域防災学習会が開かれる

8月26日開かれる京都府総合防災訓練にむけて、「阪神・淡路大震災時におけるコープこうべの活動」を学び、災害時に生協の役割や活動についてふかめる機会にしようと、組合員、職員など40名が参加し、7月21日、丹後地域防災学習会が京都生協丹後支部組合員ホールで開かれた。

小川災害対策委員長（京都府庁生協専務理事）が開会あいさつ。「京都府総合防災訓練の目的と訓練計画」について、京都府峰山振興局総務部係長・総合防災訓練事務局前田 尚さんが説明。



コープ神戸の活動を報告する井上さん



学習会は、講師に兵庫県生協連井上賢一氏（元コープ神戸組織政策企画統括部長）を迎え、「阪神・淡路大震災と生協が果たした役割」をテーマに、震災当時のビデオをみながら講演をいただいた。

京都府連尾松事務局長から「京都府生協連の防災の取り組みとボランティア参加のお願い」をおこなった。訓練講座は「緊急救命の基本」と題して丹後広域消防組合峰山消防署の救急救命師を迎え、出血止め、三角巾のつかい方等を学びました。「今日は本当に勉強になった。このような機会が持ててあらためて震災と生協の役割についてふかめることができた」と京都生協丹後行政区委員会委員長岸本チズ子さんがあいさつをおこない閉会した。

会場には、パネル展示「丹後大震災の実像」を知る（峰山町教育委員会協力）、「阪神・淡路大震災時ボランティア活動に参加して（写真）」等が展示された。

組合員とともに

食べる喜び、生きる力をすべての人に！

訪問歯科診療を支える人たち―

やましろ健康医療生活協同組合あさくら診療所歯科

「おじいちゃんが笑うようになった」「痴呆のおばあちゃんの表情が生きいきしてきた」―口腔ケアを受け、食べ物を噛めるようになったお年寄りの変化を、家族や周囲の人たちはこんなふうに話す。食べることは生きること。チューブではなく自分の口で食べ、味わえることが、生きる力そのものを蘇らせるようだ。「病院に通える人にも、通えない人にも、すべての人に噛める喜び、生きる力を」と、医療生協も訪問歯科診療に積極的に取り組んでいる。ことし四月に歯科を開設した「やましろ健康医療生活協同組合あさくら診療所（※）」の、訪問歯科診療の現場をレポート。

■ここは最新の図書館？

近鉄大久保駅から歩くこと約一〇分。古くからの住宅街の一角に、やましろ健康医療生活協同組合あさくら診療所がある。まず驚くのはエントランスホール。庭に面した窓は全面ガラス張り、天井は二階まで吹き抜け、中央には大きな丸テーブル。明るく広かった空間と、どこことなく漂うくつろいだ雰囲気は、一瞬ここが診療所であることを忘れさせる。まるで最近建てられたばかりの、しゃれた図書館のようだ。病院や診療所特有の、あのせき立てられるような喧騒もない。歯科の外来診療スペースの稼働している診療・治療ブースは七つ。設計段階からスタッフ全員で考えたという診療・治療スペースは、患

者さんとスタッフの動線が自然に分かれるようにつくられている。歯科外来を訪れる患者さんは一日に四〇人から五〇人。そのほとんどが宇治市・城陽市・久御山町の住民だという。

診療・治療スペースを出て受付に戻ると、カウンターの向かいの小さな洗面スペースが目に入る。「もともとは治療の後に口を洗ってもらうために設けたのですが、女性の患者さんはよくここで化粧を直されますね。本来の目的とは違いますが、患者さんに喜ばれているのだから、まあいいでしょう（笑）」と歯科事務長の上坂さん。

■暮らしの場に足を運んで

外来の診療業務が終わるのが午後一時ごろ。休憩して午後二時、いよいよ訪問歯科診療に出发。訪問診療は原則として週一度、火曜日の午後となっているが、デイケアなどで外出する患者さん宅には木曜日に行くこともある。

チームは、所長の平田医師、歯科衛生士の西田さん、事務長の上坂さんの三人。平田先生は以前、京都市内の仁和診療所で歯科医療にあたり、デンマークの医療事情にも詳しく、「歯の健康を社会とのかかわりで考えたい」と思っている。西田さんはことし歯科衛生士専門学校を卒業したばかりのフレッシュウーマン、上坂さんは東山診療所から移って七年目の医療事務のベテラン。上坂さんが車を運転し、平田



入れ歯を削り、入念に調整する。家にゴミを残さぬよう、ビニール袋は必携。

先生と西田さんが機材を運ぶ。

約二〇分の後、一軒目に到着。九一歳の男性で寝たきり。訪問看護サービスも受けている。きょうは入れ歯の調整。型を採り、口にはめて調子を調べ、その場で削るようすは、まさに「移動歯医者さん」。でも、あの恐怖をかき立てる「キーン」という音が、心なしか小さく聞こえる。パワーの小さい家庭用電源だからか、それともここが白っぽい診療室ではないからだろうか。

西田さんは、入れ歯の調整剤を練るために、家の人にお椀を貸してもらった。ここは診療所ではない。臨機応変に、その場にあるものを使って事にあたらねばならない。

「この患者さんは前に使っていた入れ歯が機能しているので、今回は新調せず、なるべくそれを生かそうと思っています。入れ歯は口になじむまでとても時間がかかるので」と、治療を終えた平田先生。

■「ネットワークの力」は医療生協の強み

平田先生と西田さんが治療している間、上坂



いざ出発！



訪問歯科診療の利用を呼びかけるポスター。診療所の目立つところに貼られている。



わが家の畳の上が治療スペース。



もう一度、調子を確認。

■いつでも、どこでも、最も適切な治療を
八十一歳の独り暮らしの女性を訪ねたときだった。篠いすに腰掛けた女性は、治療を受けながら、上坂さんといった。「隣の部屋に財布があるし、この間の病院のお金、そこから抜いて持っていてね」。なにげない会話や行爲のなかに、深い信頼関係がくつきりと浮かび上がった瞬間だ。

医療費抑制政策下のこんにち、歯科の診療報酬は医科と比べてもさらに低い。初診料は、医科が二七〇点、歯科は一八六点（いずれも診療

「〇〇さんは来週、〇〇の治療をしよう」という会話が入る。移動の車中はチーム三人の打ち合わせの場でもあるのだ。

この後、入浴サービスなど他のチームとかわり合えないように注意しながら、四人のお年寄りを訪ね、入れ歯の調整や、抜糸後のケア、歯周病の治療などを済ませる。三人が診療所に戻ったのは午後四時二〇分ごろだった。

さんはさりげなく男性の身なりに話しかけ、ふだんのような話を聞く。訪問歯科診療が始まるきっかけは、訪問看護ステーションや医科からの紹介がほとんど。こうしていつも患者さんや家族の状態をきめ細かくつかんでいるからこそ、医科も含めた診療所スタッフや訪問看護ステーション、ヘルパーステーションとの連携が生きてくる。この、医療と福祉にわたる連携こそ医療生協の強みだと、平田先生はいう。

治療を約二〇分で終え、次の家へ。緑の田んぼや国道や住宅街を、車は軽快に走る。地域の道を知り尽くした上坂さんの運転はとてもなめらかだ。医療事務職員が地域医療の重要な担い手であることを教えてくれる。

第3回京都二医療生協組合員交流集会

六月三〇日(日)、乙訓医療生協2階ホールにおいて、「介護」をテーマに京都の三つの医療生協（京都医療生協、乙訓医療生協、やましろ健康医療生協）の組合員が、日頃の活動や経験をお互いに学びあう機会として、京都府生協連医療部会の主催行事としておこなわれた。

草川八重子さんを講師にむかえ、ご自分の母親介護体験をととした「介護」について講演。

乙訓住まい改善ネットワーク研究会事務局長の内田森夫さんからは、お年よりにとって必要になる住宅改修のためのポイントと介護保険のもとで住宅改修支給制度について説明され、意見交換がおこなわれました。



組合員交流集会

※やましろ健康医療生活協同組合
一九九四年一月設立。組合員数三六二五人、家族数約一万三〇〇〇人（いずれも二〇〇一年三月末

所の場合）。歯科衛生士さんによるブラッシング指導は歯科に欠かせない大切なもので、通常一〇分から二〇分かけて行うが、これも八〇点しかつかない。

しかし、平田先生はさりとて言う。「患者さんには、いつでも、どこでも、最も適切な治療を受ける権利がある。訪問歯科診療はその権利を保障する活動なんです」と。

医療生協は一九九一年、「患者の権利章典」を定め、健康づくりの主人公は常に患者・組合員であることを宣言した。自宅で治療を受ける患者さんのリラックスした表情、患者さんや家族と職員との間でかわされる会話は、訪問歯科診療がその実践であることを物語っているようだ。

一人ひとりを心から大切にしたい医療生協を創立し組合員に信頼される活動を広げた故蔡東隆先生（前乙訓医療生協理事長）の活動が一冊の本に！

『ある巨木―蔡 東隆ものがたり』

定価1,500円

作家：草川八重子著

お問い合わせは、乙訓医療生協まで

☎075-921-0661

現在）。あさくら診療所（内科・歯科・リハビリテーション科・放射線科・居宅介護支援・通所リハビリ・居宅療養管理指定事業所）、訪問看護ステーションあさくら、ヘルパーステーションさぼーと・ゆう・ゆう・ゆうの各施設で、医療と福祉のネットワークを展開している。

「食品の安全を確保するための、行政施策の充実強化」などについて

京都府保健福祉部と懇談会

六月八日開かれ、京都府から戸田雄一郎保健福祉部長、今村徹生活衛生課長、森垣忠啓生活衛生課主幹さんらに御出席いただいた。

京都府生協連からは吉田会長理事、原専務理事、尾松事務局長、竹内事務局担当、京都生協小林理事長、谷口渉外担当部長らが参加。

消費者行政の いっそうの充実を

京都府商工部 消費生活課と 懇談会

七月一二日、府庁内会議室で開かれた。京都府商工部部長麻生純、消費生活課課長八島一美、主幹井上茂、課長補佐高野秀雄、指導係事務金子良一らが出席。

生協からは、生協連役職員、京都生協小林理事長らが出席。

麻生部長は「京都府の防災の取り組み、消費者行政、京都府内の農産物の取り組みなどに協力をいただき御礼申し上げます。京都においても和装品を

戸田部長は「環境ホルモン、遺伝子組換え食品など食品をめぐる懸念すべき状況だ。生協が食品の安全を守る活動をすすめられていることに敬意を表します」、「これからは、取り締まりや規制から、供給する側、受ける側、総ぐるみで食品の安全について考えていく必要がある。行政、消費者、生協さん等と足元から考えていく必要がある」と挨拶。

吉田会長、小林理事長から「食品の安全を確保するための、食品衛生法の改正と充実強化を求める請願」運動について報告した。

京都府に対して、「京都府食品安全に関する基本方針」（仮称）を策定していただきたい。今後時間をかけて勉強、検討の場をもってほしい」と要請。

はじめ、地場産業の厳しい状況が続いている。京都経済の柱となってきたIT分野も伸び悩みがめだちます。生協においても安全、安心を基本において時代にあつた仕組み、京都の伝統文化、環境を大切にして、消費者の生活に視点をあわせてくらしの提案をおこなっていただきたい。このような懇談の場を大切にしたい」とあいさつ。京都府生協連より吉田会長が、二〇〇〇年度の京都の生協活動や事業状況について報告し、日頃の京都府との関係、連携についてお礼のあいさつ。新しく理事長に就任した京都生協小林理事長が、活動紹介。「平成一三年度京都府消費者行政施策」について八島一美消費生活課課長さんより報告をいただき、「二〇〇一年度重点課題と事業活動」についてそれぞれ生協から報告。

京都府行政施策への「意見・要望事項」について報告し、「食の安全につ

意見交換の後、尾松事務局長より、「京都府の食の安全施策の確立に向けての勉強会、または検討会をお願いしたい」と要請し、終了した。



いて、「災害対策について」、「京都府内産品の普及拡大」、「都市と農村の交流事業について」、「福祉対策について」、「福祉対策について」、「生協の育成・強化について」、「男女共同参画について」、「IT関連の取り組みについて」交換。末川副会長理事より、御礼のあいさつをおこない閉会した。



鳥取県片山知事、「鳥取産の牛乳、お肉、スイカなど、よろしくお願いします！」と組合員に訴え

6月3日～11日、京都生協は「鳥取産直21わくわくキャンペーン」を展開した。鳥取県農林水産物PR推進協議会、鳥取県産直協議会、京都生協の三者の主催でおこなわれた。キャンペーン初日はコープパティでキックオフイベントが開かれ、東伯町に伝わる「円心太鼓」ではじまり、片山善博知事のあいさつや安全・安心の鳥取県産品の供給や生産者との交流などがもたれた。

鳥取県の片山知事は、忙しいなか上洛し、生協組合員に「外国の農産物がふえている中で、鳥取県の生産者と京都の生協組合員が手を取りあって、安心・安全な農産物を育て、国内の農業を発展させよう！」と訴えた。



吉田会長理事が表彰をうける

- 内閣府から、消費者保護功労者表彰
- 京都府知事から京都府行政功労者表彰

COOP TOPICS

「今、なぜ男女共同 参画社会なのか」 をテーマに研修会

京都府生協連 役職員研修会を 開催

二〇〇一年七月二十五日、第一三回京都府生協役職員研修会が五五名の参加で開催されました。吉田会長、八島京

都府商工課長のあいづの後「今、なぜ男女共同参画社会なのか」―戦後の日本経済のあゆみの中で作られた社会・くらし・女・男のあり方―というテーマで、京都府立大学福祉社会学部教授（元京都市男女共同参画懇話会委員、滋賀県男女共同参画懇話会座長）の小沢修司さんを講師に迎え、学習。新しく京都府で出された「新KYOあけぼのプラン」について京都府民労働部女性政策課の入口稔枝さんから報告を受けた。

参加者からは「話の内容がわかりや

核兵器と戦争のない二一世紀を！

京都市民平和行進に二七〇〇名が参加



は九生協、一一名。今年から、通し行進の希望者を事前に登録し、一一名が参加し、実行委員長より激励と「認定書」がわたされました。

三〇日にはコープ福知山で、日本海コース「両丹平和のつどい」はひらかれ、合唱、日本海コースの引継ぎ式（鳥取より三名）、学習会と交流（胡弓の演奏）陳曼麗さん、平和アビールの採択などがおこなわれました。

二〇〇一年、二一世紀幕開けの年！平和を求める協同の輪を！平和の花束を！地域のすみずみに！広げる年にしよう―二一世紀を「核兵器と戦争のない世界」を実現するスタートの年にしよう」とりくまれました。

京都生協では、地域のウエルカムパーティー、学習会、上京キーキッキング、山科戦争遺跡めぐり、足跡メッセージ活動が広がりました。また、上京ワークハウスの仲間たちの協力で「平和ワッペン」を七五〇個つくり普及しました。乙訓医療生協は、組合員が折鶴をつくり行進者にプレゼントし、京都医療生協では「原子力が人の健康を蝕む時」をテーマにした学習会や病院前で行進を応援しました。

すく勉強になった。どちらかというと男女平等のスタンスの問題と考えていたが、社会システムの改革が必要だということがわかり大変よかった。」「京都府行政もサポートしていることがよくわかった。」など感想が寄せられた。



京都生協新旧理事長バトンタッチ！

「末川前理事長退任の慰労と小林理事長就任披露のつどい」

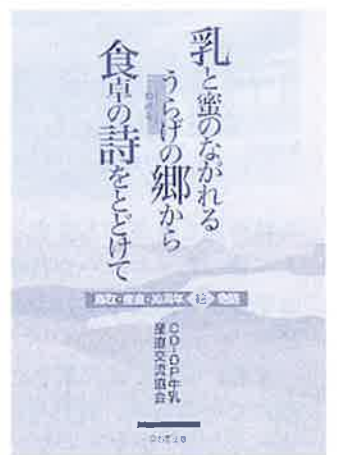
京都生協は第三七回総代会で新役員の選出をおこない、末川千穂子理事長の退任にともない、新しく小林智子さんが新理事長に就任した。

つどいは七月五日、コープイン京都で開かれ、行政、協同組合、商工会議所、生協関係者など八〇名が参加した。主催者を代表して門脇専務理事があいさつ、末川さんの退任のあいさつ、小林さんの就任挨拶などがあり、日本生協連田中副会長、京都府八島消費生活課長、J A京都中央会小滝専務理事、さいたまコープ、ならコープ、おおさかパルコープなどの代表の方々より慰労と新理事長への期待がのべられ、新旧理事長のバトンタッチがおこなわれた。



た。

GO TOPICS



CO・OP牛乳産直交流協会創立一〇周年を機に、鳥取産直三〇周年記念誌が発行された。「乳と蜜のながれる うらげの郷から・食卓の詩をとどけて」
(お申し込みは、京都府生協連事務局まで)

京都府生協連 2001 秋の生協強化キャンペーン

期間設定：2001年10月1日(月)～11月30日(金)

テーマ：「私の生協」だから、きっとできる
ひろめよう 私の願い 強めよう「私の生協」

【キャンペーンの柱】

- つどい、交流する
全体行事、テーマごと・地域ごとの行事
- 活動をひろげる
「たべるたいせつ」「食と健康」を中心に
- 全体でとりくむ行事
1. 第8回京都府生協大会・食と健康を考えるつどい
2. 功労者表彰

第8回 京都府生協大会・食と健康を考えるつどい

シンポジウム「京のこだわり たべる、たいせつ」

「食と健康」をテーマに各生協でとりくまれている活動の交流を通じて、京都の生協が「食と健康」について何を、どのように考えているかを学習し、討論します。

開催日時：2001年10月17日(水)

午後1時30分から午後4時まで

開催場所：コープイン京都

基調講演：「健康は楽しい食事から」

伏木信次（京都府立医大教授）

主催：京都府生活協同組合連合会

パネラー報告 以下の方を予定しています。

- ① 京都生協 ④ 共済生協など
- ② 大学生協 ⑤ 「たべる、たいせつ」ブック関係者
- ③ 医療生協

第13回 KYOあけぼのフェスティバル

ワークショップ

●日時●
2001年10月12日(金)
13:30～15:30

●会場●
京都府民総合交流プラザ

※京都府生協連男女共同参画委員会
が企画審査中。

勤労者健康スポーツフェスティバル

主催：京都労働者福祉協議会勤労健康
フェスティバル実行委員会

●日時●
2001年10月21日(日)

●会場●
京都府立丹波自然運動公園

問い合わせについては、
京都府協まで (TEL.821-5551)

～これからの農業・畜産のセンチュリープランを考える～

食の安全と健康、環境順応型農業
を支える新しい産直とは

●日時●
2001年10月20日(土) 13:30～
10月21日(日) 13:30～

●会場●
鳥取県国府町 因幡万葉歴史館前・
中央公民館&CO・OP美敷牧場

主催：CO・OP牛乳産直交流会
協賛：鳥取県、国府町

第21回 世界食料デーシンポジウム

主催：国際食糧農業協会

●日時●
2001年10月23日(火)
13:30～17:00

●会場●
国立京都国際会館 (Room D)

●テーマ●
「飢えと貧しさからの解放」

ライスフェアイン 京都2001

●日時●
2001年10月26日(金)
～28日(日)

●会場●
京都駅ビル

主催：ライスフェアイン京都
2001実行委員会

探訪

総合交流販売施設

くみはまSANKAIKAN

京都府久美浜町浦明3-1
☎0772-83-2000



久美浜町では、四季折々の観光資源を活用した特産物の流通・販売体制を確立し、地域農業をはじめ各種産業の活性化を図るために、町を総合的に紹介する拠点施設として、「くみはまSANKAIKAN」を平成11年10月30日にオープンしました。

この施設は、久見浜湾が一望できる国営農地浦明団地内にあり、一階には、四季折々の農、林、海産物や加工食品、和菓子、地酒など町内の特産物をはじめ、丹後地方

の特産品を販売する売店と久見浜湾近海でとれる魚介類や朝獲りの野菜などの素材をふんだんに使ったメニューが自慢のレストラン、観光案内や宿泊施設をあっせんする情報発信室など整備し、隣接するJA京都丹後梨選果場が見学できる構造になっています。二階は多目的会議室。

また、売店には玄米をその場で白米にして販売する「今搗米 (いまづきまい)」コーナーを設けているほか、野外では野菜を格安で販売する朝市も開催しています。これからの時期、京たngo梨、紫ずきんなど秋の味覚が目白押し。ぜひ一度お立ち寄り下さい。

(出所：『協同組合人No.19』)



【営業時間】

- 平日
 - ・売店 9:30～18:00
 - ・レストラン 9:30～18:00
 - ・朝市 9:30～
- 土、日、祝祭日
 - ・売店 9:00～18:00
 - ・レストラン 9:00～18:00
 - ・朝市 9:00～
- 休日 第2木曜日